

事例報告(こんにちは赤ちゃん事業)

碧南市の
“赤ちゃんお誕生おめでとう訪問”

碧南市福祉部健康課
保健師 鈴木信恵

本日の内容

- 碧南市が全戸訪問(赤ちゃん訪問)を行うまでの経緯
- 赤ちゃん訪問の方法と実績
- 要支援者への対応
- 赤ちゃん訪問を行ったメリット

碧南市の概要

人口 73,919人(うち外国人4,089人)

(H19年12月31日現在)

出生 H19年 726人(うち外国人48人)

産業 臨海工業地帯

農業(いちじく、にんじん)

保健センター

母子保健係6名(うち栄養士1名)



碧南市が 赤ちゃん訪問を行うまでの経緯

～動機、訪問スタッフの確保、訪問方法の
確立など～

赤ちゃん訪問を始める動機

- ・産後1～2か月の母親支援が手薄
- ・へきなん健康づくり21プランのアンケートより・・・育児不安を抱える母親が多い

「育児に自信が持てない母親→7割」

「1人で子育てをしていると感じる母親→5割」

赤ちゃん訪問開始までの経緯

- ・H16年 母子保健推進員を養成
- ・H17年 第1子の赤ちゃん訪問を開始
(産後うつ事例が数件あり)
- ・H18年 全出生児に赤ちゃん訪問を開始
EPDSを活用(母親の精神面へ対応)

母子保健推進員の養成

- 訪問するスタッフとしてボランティアを養成
- 役割:保健センターと母親とのパイプ役
- 募集:広報で周知
- 応募条件:育児経験のある62歳までの女性
- 講習会:5回

養成講習会 内容(H16年度)

| | 内 容 |
|-----|---------------|
| 1日目 | 母子保健推進員の役割など |
| 2日目 | 子どもの発達、子どもの病気 |
| 3日目 | 子どもの関わり方など |
| 4日目 | 話の聞き方 |
| 5日目 | 今後の活動について |

上記以外に育児相談、3か月児健診、予防注射の見学と赤ちゃん訪問の同道訪問が各1回ある

赤ちゃん訪問開始前の不安

Q1.母推になってくれる人はどの位いるのかな？

Q2.母推が訪問してくれるか？大丈夫か？

Q3.母推が個人情報を取ってよいか？

Q4.全戸訪問なんて、本当にできるの？

Q5.仕事量はどの位増えるのかな？



赤ちゃん訪問するために工夫したこと

①<母推の立場の確保>

- ・母推の規程を作成し、身分や守秘義務等を取り決めた
- ・母親と保健センターとのパイプ役
- ・ボランティア保険に加入

②<母推の募集>

- ・事前にNPOや
ボランティア経験者に声かけ

③<赤ちゃん訪問方法の確立>

- ・初めは職員と同道訪問
- ・母推の訪問は2人1組で
- ・訪問マニュアル作成
- ・訪問のロールプレイを行う

※なるべく母推の負担を軽減

④ <PRにつぐPR！>

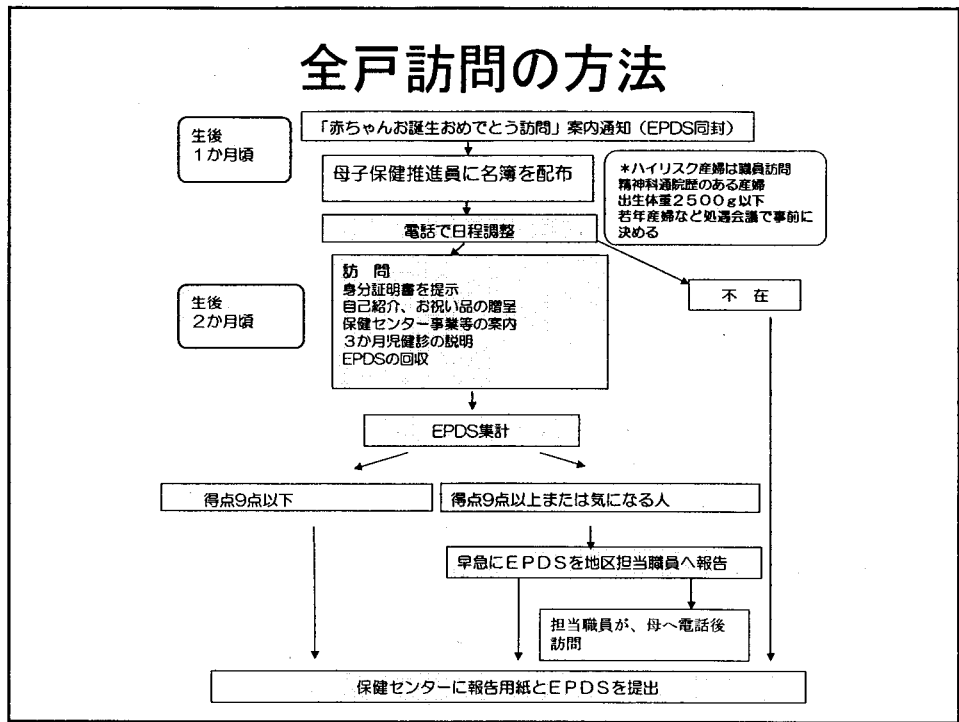
- ・妊娠届出時、出産時(病院)、
出生届出時、乳児医療手続き時にチラシ
- ・訪問前に自宅へ手紙

⑤ <まず第1子の訪問から>

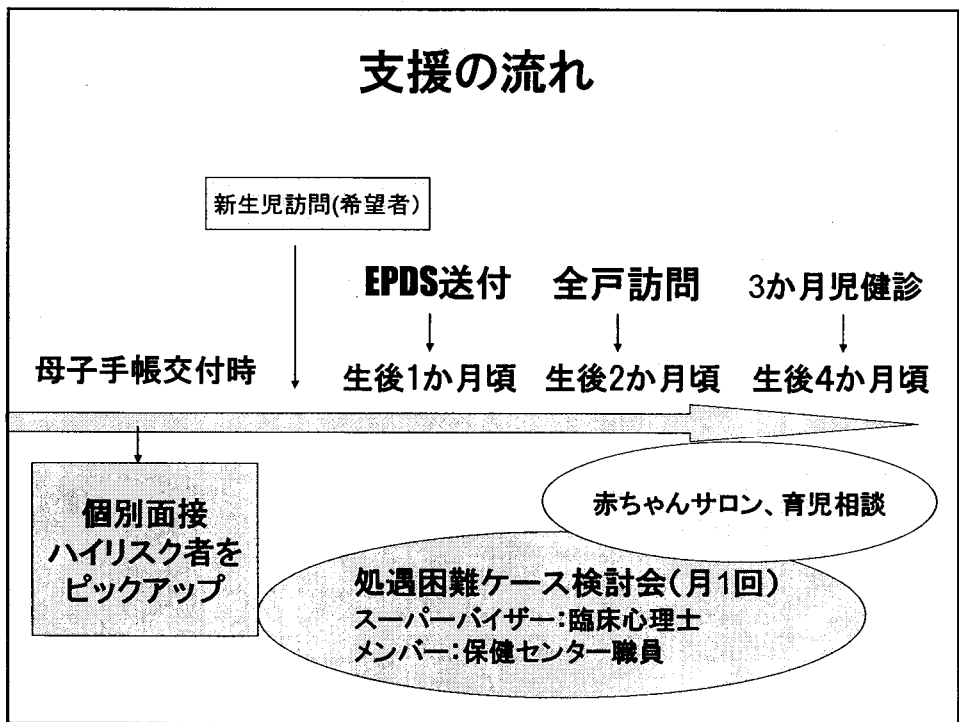
- ・母推が経験を重ねる

赤ちゃん訪問の方法と実績

全戸訪問の方法



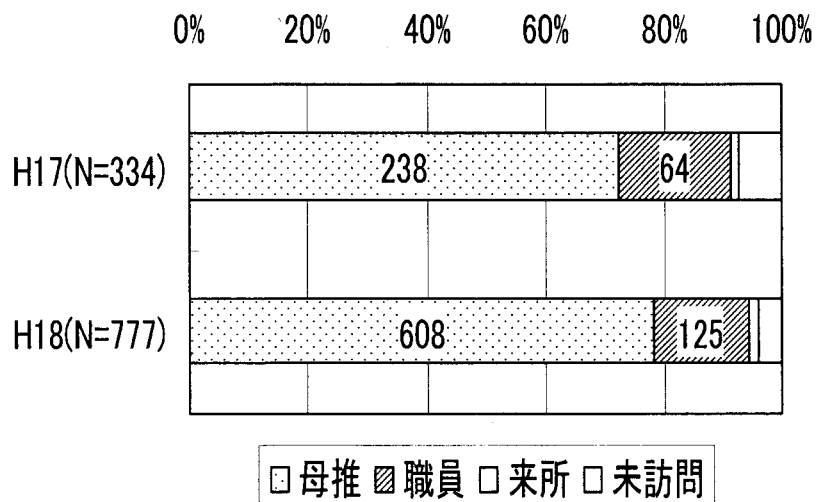
支援の流れ



訪問件数と従事者

- 平成17年(第1子)の母親 302人(訪問率90.4%)
 スタッフ:①母子保健推進員16名(2名1組)
 →1組あたりの月訪問件数 約3件
 ②職員1名あたりの月訪問件数 約1件
- 平成18年(全子)の母親 733人(訪問率94.3%)
 スタッフ:①母子保健推進員24名(2名1組)
 →1組あたりの月訪問件数 約4件
 ②職員1名あたりの月訪問件数 約2件

図1 訪問実績

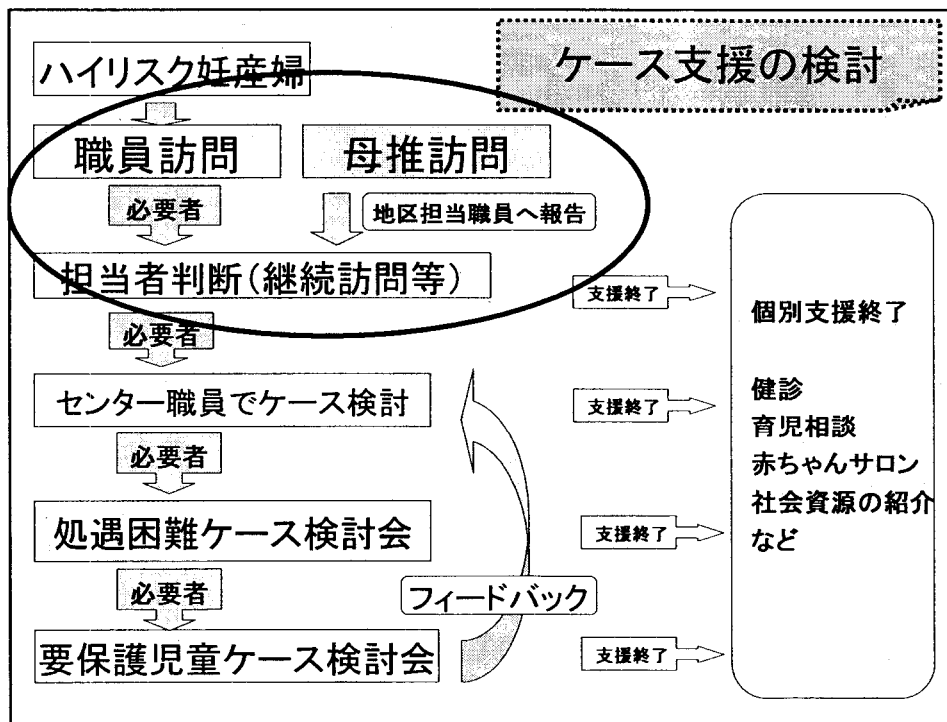
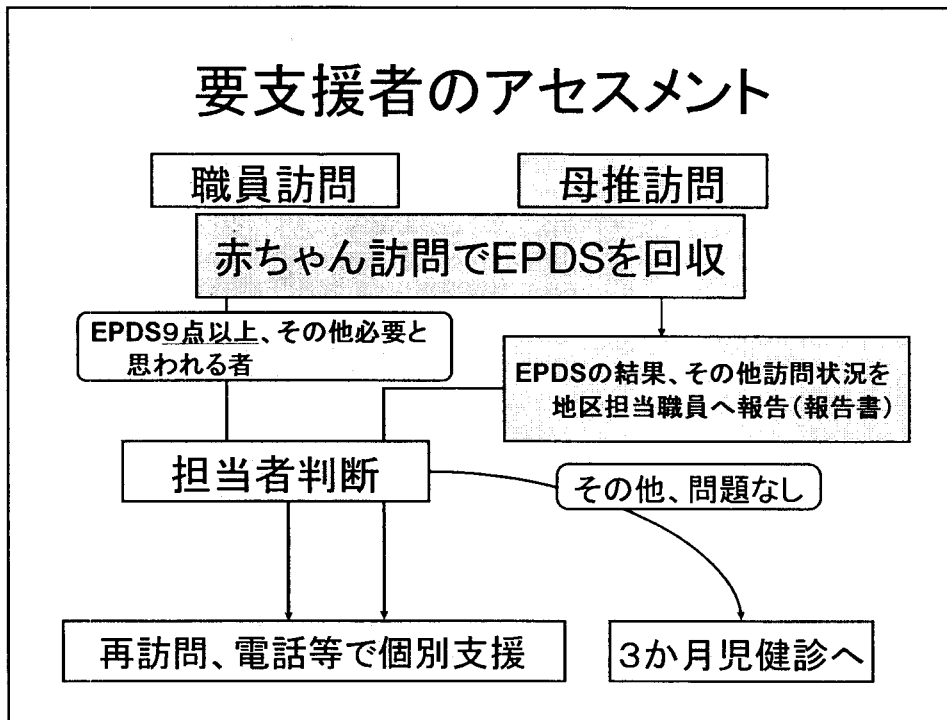


赤ちゃん訪問を開始してみても ～工夫したことによる効果・現状～

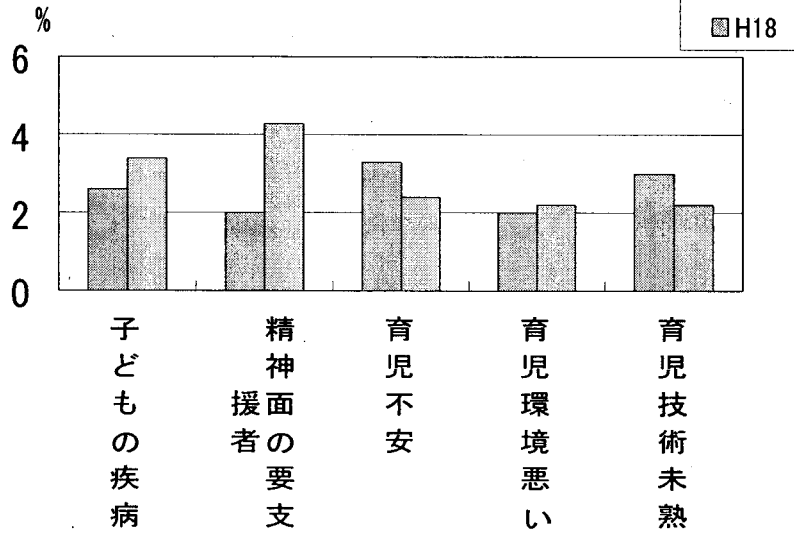
- 母推の確保→現在35名(母推からの口コミで人数増加)
- 母推だけの訪問が可能になる→フォローアップ研修実施でさらに意欲的に！後輩の指導も！→養成研修の短縮化(3回コースへ)
- PRのおかげで、現在までに拒否は3件(母からは0件)
- ルーティン化されたことで仕事量の急増なし

要支援者への対応

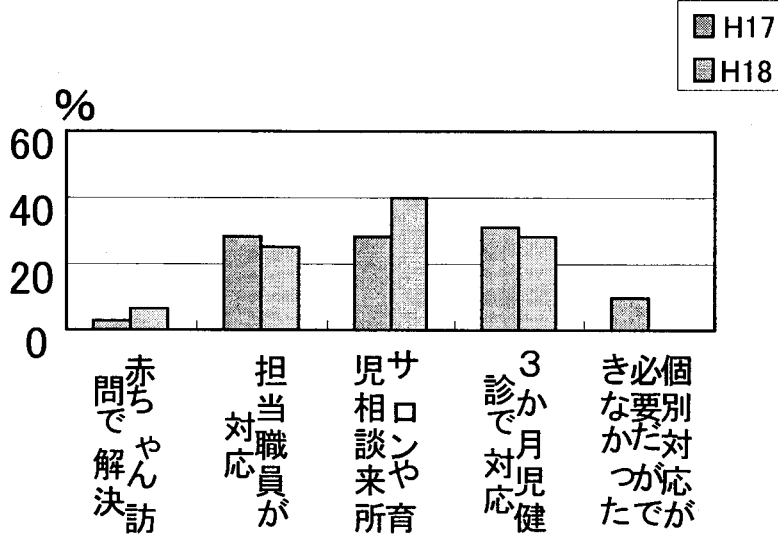
要支援者のアセスメント



赤ちゃん訪問で発見した 要支援者の割合



要支援者への対応



要支援者の事例 その1

＜母子手帳交付時にハイリスクとした事例＞

・概要 夫が威圧的

Aさん(妻)は常に夫の顔色を伺う

「心配なことはありません」とAさん

・連携した人 出産病院の助産師

児童相談センターの児童福祉士

中学校の先生とスクールカウンセラー

セララー

要支援者の事例 その2

＜母推の赤ちゃん訪問で発見した事例＞

・概要 母推が訪問した際、Bさんは第1子と

外出から帰ってきた

・連携した人 母子保健推進員

病院看護師

要支援者の事例 その3

<赤ちゃん訪問時EPDSより虐待を発見した事例>

・概要 双子を出産、EPDS高得点

赤ちゃんの泣き声が耳にさわり、Cさんは自分をコントロールできなくなる

・連携した人 出産病院医師・助産師

児童課虐待担当者、

児童相談センター児童福祉師

民生委員、ファミリーサポートセンター

要支援者に関わっている人々



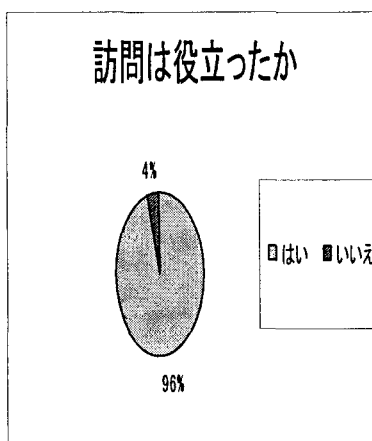
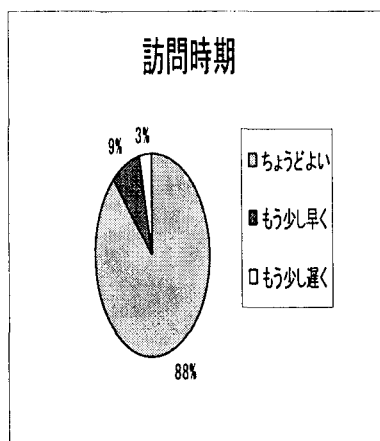
人と人とのつながりが大切

赤ちゃん訪問を行ったメリット

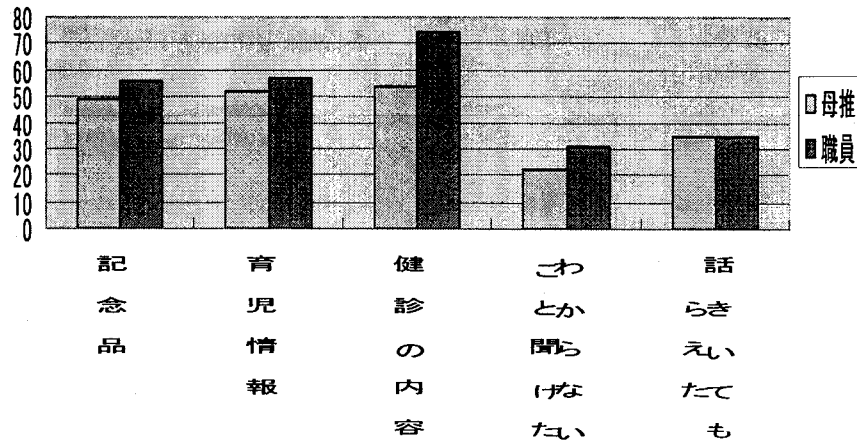
- ①母親の立場から
- ②母子保健推進員の立場から
- ③保健センター職員の立場から

①母親の立場から

赤ちゃん訪問を受けた母親のアンケート結果 N=92



役立つ内容



・外出しない時期で相談者もなく、話を聞いてもらい楽になった。

・育児情報は知らなかったのうれしい。

・サロンのことを知り、参加して友達ができるのでありがたかった。

②母子保健推進員の立場から

赤ちゃんからパワーをもらえる

- ・心から赤ちゃんに にこやかに接すると、それがこだまとして純粋な気持ちが帰ってくる

(あげたつもりが、頂くことに)

伝わったよろこび

- ・訪問した人が、赤ちゃんサロンに来てれると“伝わった”喜びがある。

③職員の立場から

「碧南で赤ちゃんを産んでよかった」といってもらえたこと

いろいろな職種の人との連携がとれるようになった

今までちょっと気になっていた家庭に訪問できた

虐待を早期に発見し、介入できたこと

産後うつの状態の母親に早期支援ができた



最近の碧南市子育て事情

- 若年妊婦の増加(19歳以下の出生率2.5%)
- 虐待された子が親に
- 協力者がいない母親
- 人とかかわることが苦手な母親
- 精神疾患をもった母親

今後の課題

- ・さまざまな事例に対応できるように、
職員のスキルアップが求められる。

まとめ

- ・赤ちゃん訪問は子育て支援、虐待防止において、当初考えていたより多くのメリットがあった。
(母親にも、母推さんにも、職員にも)
- ・赤ちゃん訪問をきっかけに福祉、医療、保健の連携を図る機会が多くなった。
- ・これからは、ますます他機関と連携しなければ複雑な問題に対応できない。

家庭訪問のお知らせ

新生児訪問

①新生児期(生後28日以内の母子)

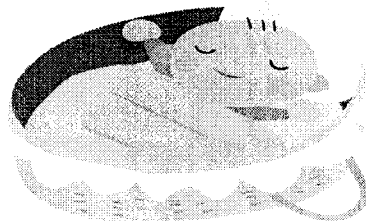
生後1か月頃までは、母子ともに外出が難しい時期ですが、お子さんの体重の増えや育児について心配なことが多いと思います。

ご希望があれば訪問しますので、気になることがありましたらお気軽にご連絡ください。

対象者：希望者

訪問者：助産師、保健師、看護師

申込み：電話予約



赤ちゃんお誕生おめでとう訪問

②生後2か月前後(全産婦対象)

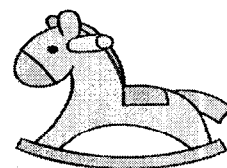
生後2か月頃は、里帰りされていた方もご自宅に戻られ、育児に奮闘されていることと思います。育児の先輩である母子保健推進員がお祝いの品をお届けし、保健センターでの相談や健診日程等の紹介をさせていただきます。

対象者：全産婦

訪問者：母子保健推進員

申込み：不要（出生届を出された方全員に訪問します）

*平成18年1月出産の方から、全員対象となりました。



問合せ：碧南市保健センター
碧南市天王町 1-70
電話 48-3751
母子保健担当